

# 大学出版

13  
号  
'91  
冬



大学出版部協会

Association  
of  
Japanese University  
Presses

北海道大学図書刊行会  
Hokkaido University Press

慶應通信

Keio Tsushin Co., Ltd.

産能大学出版部

The SANNO Institute of Management

玉川大学出版部

Tamagawa University Press

中央大学出版部

Chuo University Press

東海大学出版会

Tokai University Press

東京大学出版会

University of Tokyo Press

東京電機大学出版局

Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会

Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会

Science University of Tokyo Press

法政大学出版局

Hosei University Press

放送大学教育振興会

The Society for the Promotion of  
the University of the Air

明星大学出版部

Meisei University Press

早稲田大学出版部

Waseda University Press

名古屋大学出版会

The University of Nagoya Press

京都大学学術出版会

Kyoto University Press

大阪経済法科大学出版部

Osaka University of Economics and Law Press

関西大学出版部

Kansai University Press

九州大学出版会

Kyushu University Press



大学出版  
13号

Winter · 1991

読書の周辺

〈女〉のイコノロジー

岩崎 宗治

1

——近代初期イギリス管見——

読書の周辺

情報媒体としての電波の価値

岡村 總吾

5

伊豆・弓ヶ浜での

大学出版部協会

一九九一年度夏期研修会報告

関野 利之

9

大学出版部ニュース

14

新刊案内 91・8～11

19

大学出版部協会マーク・デザイン 道吉 剛

本小冊子の表示価格は、税込みです。

## 〈女〉のイコノロジー

— 近代初期イギリス管見 —

岩崎 宗治

(名古屋大学言語文化部教授)

## 1

イギリス中世文学の中の典型的な女性像として、まず思うかぶのはグリゼルダである。〈忍耐強いグリゼルダ〉とよばれるこの女性が、われわれの知るかぎり最初にあらわれるのは、ボッカチオの『デカメロン』第十日第十話、この本の最後の物語の中で、話はこうである——

イタリアはサルツォの領主グアルティエーリは、世継ぎを得るために、心やさしい村娘グリゼルダをめとる。やがて女の子が生まれるが、グアルティエーリは妻の忍耐をためすために、彼女の身分が低いので生まれた子に対して家来たちがたいへん不満であるからといって、この子を殺すとみせかけて、じつは遠くの親戚にあずける。その後しばらくして、こんどは男の子が生まれるが、グアルティエーリはふたたびこの子をグリゼルダの手から奪って遠く

に送ってしまう。夫を愛しどこまでも従順に生きようと心にきめているグリゼルダは「それで殿様がおよるごびになるのであれば」といって、悲しさを胸に秘めて耐える。

やがてグアルティエーリは、教皇の許可が得られたからグリゼルダと離婚して他の妻をめとると言い出し、彼女を父の家に帰らせる。ついで彼は、グリゼルダをよび出して、婚礼の祝宴の準備をするようにと命じる。グリゼルダは悲しみをこらえてこの仕事を果たす。グアルティエーリが新しく来た花嫁をどう思うかとグリゼルダにたずねると、彼女は若い花嫁の美しさをほめ、「どうか別の女になさったような仕打ちはなさらないように」と言うので、さすがのグアルティエーリもグリゼルダの愛と忍耐に心を打たれ、花嫁がじつはグリゼルダの生んだ娘であることを明かし、残酷な試練を与えたことをわびてグリゼルダを抱擁し、あらためて妻の座にすわらせる。二人は娘と息子とともに、またグリゼルダの老いた父にも身分を与え、すべての人びとに祝福されて幸せに暮らしたという。

グリゼルダのこの話は、ペトラルカのラテン語訳（一三七四年）を経てフランスに伝えられ、さらに、イギリスに渡ってチョーサーの『カンタベリー物語』の中で「学僧の話」として語られ、また劇やバラッドの素材として用いられて広く知られるようになった。

## 2

「忍耐強いグリゼルダ」が貞女の鑑であったとすれば、

悪女の見本は、たとえばノアの妻であった。彼女は亭主と

殴り合うがみかみ女として、民衆に知られていた。ノアの妻は、いくつかの地方都市で毎年コーパス・クリスティーの祝日に同業者組合によって上演される聖史劇の人気者だったのである。

もちろん、善女と悪女のイメージとしては、キリストの母としての聖処女マリアと、サタンの誘惑にのつてアダムを罪に陥れたイヴと、この二人の女のイメージがあった。

マリアのイメージは、幼児キリストを抱いた姿として「慈愛」の図像と重なり、また処女として「貞潔」の図像と重なっていた。エリザベス一世の時代には、当時、書物の挿絵やタペストリー、あるいは日用家具の装飾画として広く流布していたベトラルカの連作詩『凱旋』のイメージ、とくに「貞潔」の寓意像が凱旋車に乗って進むイメージが、処女女王エリザベスのイメージと重ねられるようになった。さらに、プロテスタントの宗教改革によってマリア崇拜が抑圧され、処女女王の崇拜がこれにとって代わると、一人の女のイメージは、宗教的、神話的、政治的と、幾層にも重なる象徴的意味を帯びるようになった。

エリザベス崇拜については、フランシス・イエイツの『アストレア』（一九七五年）の翻訳である『星の処女神エリザベス女王』（西澤龍生・正木晃共訳、東海大学出版会、一九八二年）の出版によって、われわれのあいだでもよく知られている。

### 3

『家族・性・結婚の社会史——一五〇〇年—一八〇〇年のイギリス』（一九七七年、一九七九年）（北本正章訳、勁草書房、一九九一年）の中で、ローレンス・ストーンはこう述べている——「一六世紀および一七世紀における理想的女性は、弱々しく、従順で、慈愛に富み、貞淑で温和な女であった。……女の役割は家政と育児であった。女性に求められる振舞いは、教会でも家庭でも寡黙であること、あらゆる場合に夫に従順であること、であった。」（忍耐強いグリゼルダ）は、もちろん、この種の理想的女性の典型であった。

だが、現実には、グリゼルダのような貞女がめつたにいろものではないということも、また常識の教えるところであった。チャーサーは「学僧の話」の結びで、「昨今では、町中さがしてもグリゼルダを二人、三人と見つけることはむつかしい」と述べているし、エドモンド・スペンサーの長篇ロマンス『妖精の女王』第三巻でも、「貴婦人たちの従者」とよばれる好色の男が三年間、愛の遍歴をして、彼の求愛を却けた「貞女」はわずかに三人、お金が少ないと断った娼婦と、他人にもらされると困るからと同意しなかった尼僧と、貧しい田舎娘（グリゼルダという名前は出てこない）の三人だけだったという。

市民社会が発達し、プロテスタンティズムが強くなる  
と、貞女や貞潔のイメージも変わっていった。教会は「結

婚生活は独身生活にまさる」と説き、また、「結婚は単に嫡出子を残すためのものではなく、夫婦がともに起居し、助け合い慰め合う」ためのものだと言った。じつは、こうした教えの背後で、社会生活のあり方そのものが変わってきていたのだ。中世の農耕社会における荘園主や農民の比較的大きい規模の家族構成から、都市における職人や商人たちといった市民の夫婦を中心とするいわゆる核家族へと、家族や夫婦のあり方が変わりつつあった。夫婦と子供から成る小さい家族は、生産と消費にかかわる経済単位としての機能を強め、女性の発言権もその意味で強まっていた。だが、教会は、妻は夫を愛し、その愛を通じて夫に従うべきだと教えたから、結婚における個人の選択は重んじられるようになったけれども、結婚生活における男性支配のイデオロギーは維持されていた。このようなプロテスタント的結婚観、女性像は、一七世紀初頭のエンブレムに明らかに見られる。

4

トマス・クームの『寓意画集』（一六一四年）の中に「女的美徳をあらわす寓意」と題するエンブレムがある。

題の下に描かれた絵(図1)では、カーテンのある部屋で、女が椅子かクッションのようなものに腰かけて、床に這う亀の背に片足をのせ、左手の指を口にあて、右手で鍵を差し出している。窓からは外の風景が見えている。

韻をふんだ詩の形で書かれた積義は、こう言っている。



図2 ミドルトン・デッカー『極道娘』(1611)、扉ページ。



図1 T.クーム『寓意画集』(1614)から。



この絵がみごとにあらわしているのは

どういう美德が女の誇りを高めるかということ。

まず、女の足もとの亀の寓意は

女は出歩かず家をととのえるべしという。

手の指を唇に押しあてているのは

女は声高に話してはならぬということ。

鍵の意味は、妻たるもの、夫の精励の

所産たる財産を、心して守るべきこと。

これは、もちろん男性支配の女性観であり、女は寡黙であるべしとするところは、グリゼルダ伝説の背後にある女性観に似ているけれども、女は常に家にいて夫の財産を守れというのは、ロマンティックな愛とはほど遠い実利主義的な経済的機能としての妻の観念のあらわれである。「声高に話してはならぬ」、つまり舌を用いてはならぬという言葉のうらには、がみがみ女であってはならないという意味と同時に、夫に貞淑でなければならぬという意味がある——舌は女の武器であり、冗談として女のペニスであったからである。プロテスタント的、市民的女性観は、女にのみ貞淑を要求するいわゆるダブル・スタンダードの性倫理を含むものであった。「貞潔」*'chastity'* はこのころ、処女の純潔よりもむしろ妻の貞淑を意味する語になっていた。

クームの『寓意画集』と同じころ、トマス・ミドルトンとトマス・デッカーの合作喜劇『極道娘』または巾着切りのモル』（一六一一年）がロンドンの劇場で上演された。

女主人公モル・カットパスは、名うてのおとこ女で、男装して人に喧嘩をふっかけ、男をのしる、殴る、蹴り倒す、煙草をふかす、要するに手に負えぬ女であるが、劇の中では若いカップルに味方して、親に許されぬ恋を成就させてやるロマンティックな役割をはたす。

この女にはモデルがあつて、それは当時ロンドンで知られていたじゃじゃ馬娘メアリー・フリス。靴職人の娘で、子供のころから遊びは男の子の遊びばかり、娘になつても針仕事は大嫌いで剣や短剣ばかりもちたがる。結局、掏摸、占い師、詐欺師になつて、男装して剣を帯び、街を徘徊するようになる。イギリスで煙草を喫った女性第一号の名誉は彼女のものである。

『極道娘』の版本につけられた扉絵(図2)には、ズボンと上衣、それにマントと帽子という男の服装で、左手に剣をもち、右手にパイプを握って煙草をふかしているモルの勇姿が描かれている。

亀の背に片足をのせた良妻の画像と、この男装した「極道娘」のイメージを並べてみて、フェミニズムと家父長制の問題を、いちどこのあたりから考えてみたいという気がしている。

## 情報媒体としての

## 電波の価値

岡村 總吾

(東京電機大学学長)

最近では電子情報工学の進歩によって、書物を印刷するにも、一々活字を拾うのではなく、ワード・プロセッサを利用してオフセット印刷によるものが多くなったと聞いている。そのうち書物や論文の原稿は、原稿用紙は全く使用されなくなって、フロッピーディスクを送るか、または電子メールで直接オフィスまたは自宅から印刷所のコンピュータに送るようになることと思う。この様に、情報の伝達処理には電子情報技術を利用することが多くなってきている。情報を伝達する場合に、ケーブル等の有線伝送系を利用するにせよ、電波を用いた無線伝送系を利用するにせよ、伝送系の特性によって、送られる情報の品質や伝送の速度が左右されることになる。

一般に、文字や画像を電気信号によって伝送する場合には、送ろうとする画面を細かい点(画素)に分解して、こ

れを順々に電気信号の大きさに変換し(これを走査という)受信点に送る。受信点では送信点における走査方法の情報を利用して、順々に送られてきた情報を組立て、元の文字または絵を再現するのである。この場合、画素の細さをそのままにして走査の速度を二倍にすると、一つの画面を半分の時間で送ることが出来るが、信号の変化は前の場合より二倍速い変化をすることになるので、伝送線路の周波数特性は二倍の周波数帯域を持つ必要がある。また、文字や絵の品質を上げるために画素を細かくして、同じ速度で伝送しようとする、伝送系の周波数帯域を広くする必要があるので、同じ周波数帯域の伝送線路で、より高い品質の文字または絵を送ろうとすると、一枚の画面を送るのにより長い時間の必要なことも明らかであろう。

このように情報の品質を上げると、伝送速度を早めることも、同じく単位時間あたりの情報量を多くすることになる。これは情報理論の教えるところで、情報量とそれを処理または伝達するに必要な周波数帯域とは比例するということになっている。

ケーブルや導波管のようないわゆる有線伝送線路の場合には、非常に広い周波数帯域を使用しても、線路の費用が高くなるだけで他に妨害を与えることはないが、電波を利用した無線伝送の場合には広い周波数を占有してしまうと他の利用を妨害することになってしまう。

筆者は以前から「電波は土地と同じ性質を持っている」ということを主張してきた。土地は目に見えるが、電波は目に見えないという相違がある。そのため土地の価値は従来十分認識されてきたのに反し、電波の固有の価値は十分の認識が得られていないのではないかと思われる。しかし、最近の様に高度情報化社会になってくると、電波（導線で導かれたり、導波管に閉じこめられたものも含めて）の固有の価値が十分に認識されるようになってきた。土地も電波も非常に大きい価値を持ったものであり、しかもどちらとも大変公共性の高いものである。また、どちらも開発すればするほどその価値が上昇する。土地にはいろいろの種類がある。大都市の商業地域、工業地域、住宅地域、大都市郊外の住宅地域、学園地域、農村地域、荒野、森林地域、山岳地域等から、人間の生存の困難な砂漠地域や南極地域、さらに到達することさえ困難な月や火星等の地域も考えられる。これらの土地は、それぞれその種類によって単位面積あたりの価値が異なり、したがってその値段が異なる。また、同じ種類、例えば住宅地域でも大都市とその郊外あるいは田舎では非常な値段の相違がある。

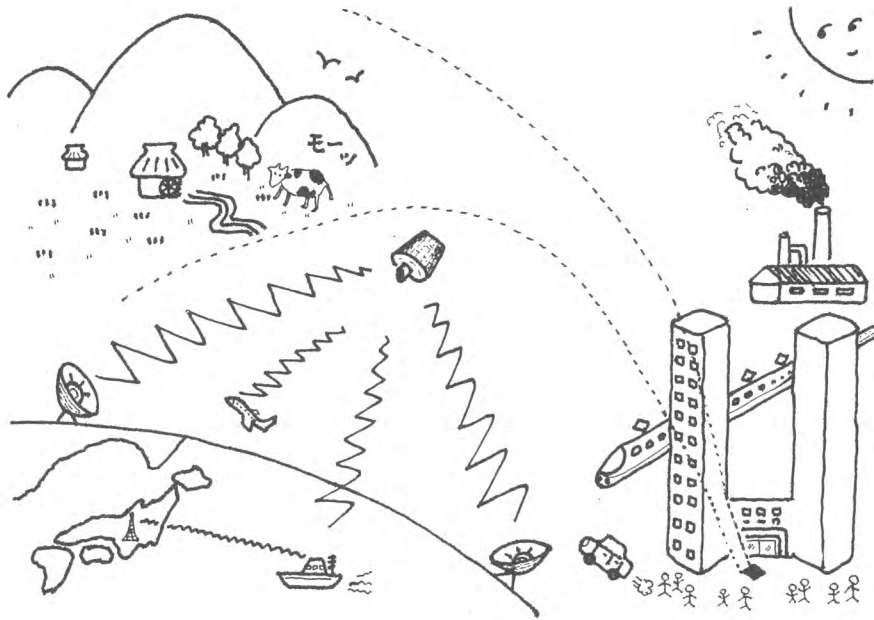
電波の場合も周波数によってその特性が異なる。周波数の低いほうから、VLF（超長波）、LF（長波）、MF（中波）、HF（短波）、VHF（超短波）、UHF（マイクロ波）、SHF（マイクロ波）、EHF（ミリ波）等と呼ばれ、その特性に応じてそれぞれ、固定局間通信、移動通信

（船舶、航空機、陸上等）、衛星通信、放送、無線測位その他の無線応用等、いろいろの用途に使用する電波の周波数が割当てられている。電波の場合、取り扱える情報量は周波数幅に比例するから、土地の場合の面積に相当する電波の単位は周波数幅である。土地の場合と同様に、電波の場合も周波数によって電波の固有の価値が異なる筈である。

また、同じ種類の用途でも周波数によってその価値が異なることになる。例えば放送用電波でもVHF波とUHF波とSHF波とを比べると、周波数の低いほど送信機や受信機等の装置の価格が安く、そのうえ放送区域の面積は広くなる。したがって、現在のように放送会社が電波の使用免許を受けることにより、無料で電波を使用している場合には、低い周波数の電波を割当てられた放送業者は高い周波数を割当てられた放送業者より有利になるわけである。これは土地の場合に類推して考えると、全ての土地が国有であって土地を使用したい人は住宅用であれ、工場用あるいは商業用であれ、全て政府に申請して許可さえ得られれば無料で使用することが出来ることに相当する。もちろん土地にも国有地があるように、電波の場合でも特別に公共用に使用する場合には無料で使用することは当然であろうが、少くとも電波を使用して放送や通信の業務を行い利益を得ているのに無料で電波を使用出来るのは不合理のように思われるが如何なものであろうか。

人間というのは案外馬鹿なもので、非常に不合理なこと





でも昔から行われていることはなかなか変えられない。筆者には土地と電波とは極めて似通った性質の物のように思われる。両者とも大変公共性が高く、本来人類の共有すべき貴重な財産である。土地は面積によってその量を計ることが出来るが、電波も周波数幅によってその量を計ることが出来る。土地は場所により単位面積あたりの価値が定まり、電波はその周波数によって単位周波数幅あたりの価値が定まる。両者が異なるのは、土地は目に見えるが、電波は目に見えないことである。そのため古来から土地は財産として私有することが認められているのに反し、電波のほうは財産として認められることはおろか、使用権に対する使用料を徴収することさえ行われていない。

法律について全く無知な筆者の乱暴な意見であるが、科学技術に従事しているものから見ると、土地と電波とは非常に性質の似た物で、両者とも人類共有の貴重な財産であることを思うと、共に私有財産として所有し売買することは認めないで、国有財産としてしまい、適当な期限を切って使用することを認め、その使用料を土地の価値に応じて政府が徴収することが適当ではないかと思う。一方、電波のほうも財産として私有することは認めないが、その価値に応じた使用料を政府が徴収するのが適当であろう。

土地も電波もその価値は固定したものではなくて、それらに対する需要が拡大したり、利用し易くなったりすれば、その価値はどんどん増大する。例えば、土地の場合に

は、大都會の土地は交通の不便な田舎の土地よりは格段に高い価値を持っているし、石油や鉱物資源が発見されたことにより土地が高騰する場合もよく見られることである。また、鉄道や高速道路の建設により都市への交通が便利になった為、その近辺の土地の値段が高くなることも多い。この場合、例えば住宅用の土地について考えて見ると、都心の職場に勤務している人が遠方の田舎に住宅を持っている場合、毎日の通勤に多くの費用と時間を要することになるから、土地の値段はそれらの費用を総合的に考慮して定まることになる。

電波の場合も全く同様で、利用し易い電波は利用し難い電波よりも価値が高く、また電波を利用するに必要な送信機、受信機、測定器等の機器が安価に製造できるような周波数帯の電波は、機器が高価になってしまふような周波数帯の電波よりも、電波固有の価値が高い筈である。例えば、テレビジョン放送に利用する電波について考えて見よう。VHF放送とUHF放送とを比較してみると、VHF帯の機器のほうがUHF帯の機器よりも価格が安くなり、その上VHF放送のほうがUHF放送よりもサービスマリアが広くなる。したがって、維持費等を含めて放送に必要な機器等の費用に電波の固有の価値を加えたものをサービスマリアで割ったものが、サービスマリアあたりの放送に要する費用であるとすれば、これが一定であるためにはVHF帯の電波の固有の価値はUHF帯の電波の固有の価値

よりも高くなる筈である。

また、電波の場合も土地の場合と同様に研究者や技術者の努力により送信機、受信機、測定器、伝送線路等の性能が向上したり、その製造価格が低下したりすれば、その周波数帯の電波の固有の価値は増大することになる。

一般に、電子・電波工学の研究には、今まで発生させることの出来なかつた電波を発生させたり、その電波を受信したりするものと、情報の処理伝達等について研究するものがある。前者は、土地の開発に類推すれば、未開の土地を開拓することに相当し、後者は土地の利用を促進することに相当する。いずれもその研究により人類の貴重な資源を開拓し、人類共通の資産を増加することに貢献している。これら人類共通の資産を利用するには当然その使用料を支払ふ必要があり、かつその使用料は将来の人類の電波資源を増加させるための電子・電波に関する研究費に充当するのが当然ではないかと思われる。

以上、法学、経済学、社会学等に全く素人の筆者の妄言である。御叱正を賜われれば幸いである。

伊豆・弓ヶ浜での

## 大学出版部協会

### 一九九一年度夏期研修会報告

関野 利之

(玉川大学出版部)

大学出版部協会の、一九九一年度夏期研修会は、八月二十九日(木)～三十一日(土)の三日間、伊豆半島突端の弓ヶ浜の明星学苑弓ヶ浜研修所で開催された。今回の研修会は、北は北海道大学図書刊行会から南の九州大学出版会まで日本側出席者四七名、今年は隔年ごとに開催されている日本・韓国大学出版部合同セミナーが日本側担当ということもあって、韓国大学出版部協会のメンバー一八名が参加し、総勢六五名の盛会になった。この合同セミナーも今年で第十回を迎えることになる。顔なじみも多い。

今年の研修会担当のホスト校は、放送大学教育振興会である。十分練り上げられたスケジュールと用意周到なホストぶりに感謝。

研修会の主な目的は、協会加盟の大学出版部メンバーの相互研鑽にあるのだが、今回は趣向を凝らして、部会の分

科会を止めて全員参加のプログラムを設定した。大別すると、

- I 日本・韓国大学出版部合同セミナー
  - II 講演「イギリス出版史の周辺」
  - III ケーススタディ「学術書の刊行と流通」
- 以下、プログラムを追って、私なりに整理・集約してみよう。

#### I 日本・韓国大学出版部合同セミナー

日本側を代表して、幹事長・斎藤至弘・東京大学出版会専務理事の挨拶・日本大学出版部協会役員の紹介、つづいて韓国側代表の会長・権吉武・啓明大学校教授の挨拶・セミナー参加者の紹介が行われる。

日本側発表者は、山下正・東京大学出版会常務理事である。「大学出版部の役割」と題されたその要旨は、次のようである。

「大学出版部運営の基本になるのは、大学出版部の役割・機能をどのようにとらえるか、現状ではいかなる課題を担っているのかといった点こそが究明されなければなりません。」

ここ数年間における大学をめぐる社会的変化および出版界における学術出版の動向などを考えればこれらの変化に対して、大学出版部および大学出版部協会がどのように対処していくのかが明らかにされねばなりません……いまだ



本の大学は大きな岐路に立たされています。大学審議会を中心にして、大学改革が着々と進められており、社会の高齢化・情報化・国際化・成熟化の進展に対応した新しい大学づくり構想が具体化しつつあるからです……大学院重点化構想、学部新增設の原則抑制、私学の財政的危機の深刻化など……生き残りを賭けた大学間競争の激化のなかで、研究と教育はどうなっていくのか、大学出版部はいかなる役割を果たすのかが問われることになるでしょう。私たち大学出版部は出版を通じて大学の機能に参加することが基本的任務であるのですが、現実はどうなっているのか、この辺で十分に再検討すべき段階にきているのではないのでしょうか……一次情報的研究書・学術書の刊行、大学改革による講座の再編成、一般教養教育とリンクした教科書の開発等があげられます……。

各出版部にはそれぞれ独自の出版方針があり、それに基づいた出版活動が行われていますが大学出版部である以上、大学における研究成果の発表の場としての性格から逃れることはできません。協会全体として、大学出版部らしい学術書・教養書・啓蒙書・教科書の性格を、十分に議論・検討すべきではないでしょうか。また、刊行された書物についても相互に批評し評価し合う場があってしかるべきではないでしょうか」と結んだ。

つづいて韓国側発表者は李光來・江原大学校出版部長の「韓国・日本・中国大学出版の交流と協助方案」と題した

報告。

「韓国の諺に『十年の歳月が流れれば山河も変わる』という話がある。今年韓・日出版部が相互交流を始めてから十年になる。十年の歳月は親友になる準備期間、いまこそ私たちにもっと成熟した関係方式が必要であると思う……私は次のような実験的な方法を提案したい。

漢字使用圏の文化的な結束を提案したい。言語と文字は文化の核になると共に文化普及の最大の戦略になる。イギリス・アメリカの英語圏、彼らのグローバル・ネットワークがグローバル・ブックを誕生させた。これに拮抗するためにはアジアの特に漢字文化圏は眠りから醒めようではないか。また韓国の諺に『始めるといふことは事の大半を占める』という言葉も始めることの重要性を強調している。その具体的な何種かの方案を提案してみよう。 ・筆者

発掘の広域化 ・出版物の共同展示会 ・大学出版部の統計資料 ・図書目録の定期的交換などが挙げられる。

また韓国は日本側の積極的な協力を期待したい。韓国大学出版部は、国内は勿論のこと国際市場への進出についても経験不足である。そして技術援助、出版技術の習得のために韓国大学出版部の実務者が短期の研修機会を持てるように配慮してほしい……交流範囲の拡大も漢字文化圏の結束という前提のもとで中国・北朝鮮との交流にも関心をもちたい」と、かなり前向きな発表がなされた。

## II 講演「イギリス出版史の周辺」

大学出版部協会の初代幹事長であり、現在、神奈川大学の教授である箕輪成男氏の翻訳書『イギリス出版史』（フェザー著、玉川大学出版部刊行）が主人公である。

イギリスにおける出版業は、宗教改革のころの少数のギルド的な出版者による聖書・宗教书の刊行にその始まりがあるとされている。その後、産業革命による都市人口の拡大、教育の普及、余暇時間の増加が、今日における書籍の流通、ひいては活字メディア・映像メディアの隆盛を促してきたといえる。制度的には、権威の庇護の許にあって一部の出版者のみに許可されていた出版の権利が広く開放されて、同時に、著作権法と正価本協定が制定されることにより、横行していた海賊本が駆逐され、著作者と出版者の権利の保護が確立されるようになった、というイギリス出版五百年のドラマである。

実物教育といながら秘蔵の収集品をふんだんに駆使しての技術に魅了された二時間であった。検閲と闘い、統制に便乗し、競争と協力のバランスの上に紡ぎだした、したたかな出版者・著者たちのドラマと書物の帯に書かれているように、現在の出版業界の成立を考えるよい機会でもあった。別表に箕輪成男氏の作成した「イギリス出版史時代区分」をあげた。出版史に関心のある人にとって貴重な資料になることと思う。

ちなみに日本の江戸・京都・大坂は、西欧社会と隔絶し

ながらも、ヨーロッパの規模に比肩する独自の出版文化が栄えていたのも読み取れるであろう。

### Ⅲ 学術書の刊行と流通

「学術書の刊行——ケーススタディ『エイジング大事典』の編集・刊行」と題して、早稲田大学出版部の寺山浩司氏の報告がなされた。B5判上製・八五八ページの大冊である。早稲田大学人間科学部が主体になって編集・翻訳された。その出版過程を刊行委員会の発足から起こして、翻訳権の取得、編集事務局の設立、執筆要綱、翻訳開始、原稿整理、レイアウト、校正、索引製作などについて実物見本を提示しながらの説明。平行してマーケティングの拡売材料の作成が行われ、装丁見本・タイトル・資材の選定・パンフレットの作成発送の次第が語られる。質疑応答が繰り返される。長いようで短い時間であった。

つづいて、「学術書の流通を中心に」と題して、法政大学出版部の阿部好文氏がコーディネイターとなってフォーラムディスカッションが行われた。さきの学術書刊行のケーススタディにオーバーラップしての討議だけあって具体的な事例をもとに議論を繰り返すことができた。出版物の流通経路は勿論のこと、学術書と一般書、出版VAN、再販売価格維持制度などにも話題が広がった。

恒例の研修会も一夏の終わりを飾るイベントである。





別表 イギリス出版史 時代区分

フェザー 『イギリス出版史』 & 箕輪より

		16・17世紀	18世紀	19世紀	20世紀
時代の特徴		許可制下の出版 宗教革命 1517- イギリス宗教革命 1548-1550 王政復古 1660	自由化時代 政党政治 資本主義の発展	産業革命後の出版 生産的都市の出現 (集中的読者)	情報化時代の出版 ラジオ・テレビ・ 新聞との棲み分け
読者の範囲		ロンドン中心	地方(全国市場)	初等教育の拡大	海外・高等教育
読書の目的		宗教・宗教革命論 争	余暇・紳士の娯楽	教育・啓蒙	情報・大衆の娯楽
アクセスへの制約		出版物の稀少性・文盲		価格	発見の困難
代表的出版物		宗教書・パンフレ ット・ニューズ本・ 実用書	小説・雑誌	小説・鉄道文庫 復刻本	ペーパーバックス
代表的機構		出版許可法 1559-1695 特権・特許	卸売制度 著作権法 1710-1842	機械製紙 1798 機械植字 1884 高速印刷 1800 正価本協定 1900	正価本協定時代
出版を支える 権威		王室(許可制1559 -1695)	閉鎖的書籍業界	著作権法 1842 国際著作権法1838	正価本協定 1900
出版者の性格		宮廷文化人・商人 印刷者 16C 出版者 17C	家族経営的出版社 主	近代的出版者	革新的出版事業家
販売方法		パトロン 16C	カタログ、卸・小 売書店・出版社の 分業	駅売店・貸本店	ブッククラブ 図書館拡大・副次 権
出版 点 数	イギリス	1520年 50点 1550年 100-200点 17C 100点 22.5万(17C初) 50万(1660)	100点	1792-1802 372点 1802-1820 580点 19C半ば 2,600点	1901年 6,044点 1913年 12,379点 1964年 26,154点
	ドイツ	1619年 1,668点 1654-94年 826点 1746-56年1,347点 17C(重版込) 2,000点	18C(重版込) 5,000点		
	フランス	42.5万(1702)	1760-70年 300-400点 54.6万(1801)	1880年 14,840点	
	日本 (江戸人口)	35万(1695年, 町 人のみ)	1727年 350点 1750年 550点 100万(1721年)	1870年 500-600点 1878年 2,661点	1990年 39,698点
	ベストセラーの 規模	1,000-1万部		10万部	100-500万部
コミュニケーション		少数エリート間のコミュニケーション		マスコミュニケーション	大衆動員による超 マスコミュニケーション

## 北海道大学図書刊行会

■阿寒湖の宝石として讃えられ流行歌のタイトルにも登場した「マリモ」だが、その生態はあまり紹介されてこなかった。このマリモについての本格的総説『マリモの科学』をこのほど出版した。話題となった時期がはるか以前であるために、とうに中年の域に達している関係者は、部数決定にあたって慎重な結論

大学出版部ニュース

## 産能大学出版部

▼九月末に発売した「社長の販売学」が三〇〇〇円という定価にもかかわらず好調な売行きを示している。著者の一倉定氏は空理空論を嫌い、徹底的に利益第一主義を標榜する異色の経営コンサルタントである。

▼「未来歴史年表」鶴田章著、一五〇〇円、未来に必ず起こる出来事(予測ではない)、それ

をだした。返品を流用して注文をしのいでいるが、当人たちの予想を覆す反応に、まだ半信半疑という状況だ。■ところでこのマリモ、直径十五センチ台になるのに二十二、三年もかかるというが、これも推算の域をでておらず、肝心の、「マリモはなぜ丸い」ということについてもまだ定説がないのだという。マリモと心中する覚悟の研究者がでてほしいというのが急逝した著者の熱い要望でもある。

が未来歴史年表である。21世紀の日本の姿が具体的にイメージでき、私達の未来を占うことができる具体的な書である。

▼「高収益物流システムの設計」和多田作一郎著、二〇〇〇円、本書は、「高収益物流戦略」の続編で多品種、多頻度、少量配送という現代の要求に対応し、なおかつ物流コストの低減を図り、高収益を上げるための理想的な物流システムの設計法を具体的に述べたものである。

## 慶應通信

〈新刊紹介〉慶應義塾大学地域研究センターのプロジェクトの報告書である『オーストラリアの企業環境と経営』(藤森三男編著・A5判二三〇頁・三五〇二円税込)が発刊された。日本とオーストラリアのパートナリシップ関係は、貿易・経済関係を中心に今後ますます発展してゆくと思われるが、そ

## 玉川大学出版部

◆「米国教育使節団の研究」土持ゲリー法一／九七八五円「戦後における日本の教育に大きな影響を及ぼした米国教育使節団に関する文献は、土持法一教授によって見付けられ、優れた研究として纏められた。理想と現実の対立からむ困難をめぐりに甦らせた力作である。」ドナルド・キーン

れにも拘らず、その社会システム、経済機構、ビジネス実務などについては、日本人によく理解されているとは思われない。本書は、この点の理解および正当な評価を助けるために、日本人学者四人、オーストラリア人学者五人(訳文)の共筆によって、オーストラリアの経済問題や企業経営の分析および詳細な紹介を行なうとともに、日本経済との差異を社会文化的背景にまで言及して解説している。

◆「日本の学歴エリート」麻生誠／四九四四円

日本の学歴社会は何を学んだかではなく、どんな学校を出たかを重視する。明治以後の学歴エリートの虚像と実像を探り、21世紀のエリート像を提示する。

◆中学・高校生対象の(原図で見る)科学の天才」刊行開始 全6巻/各一五四五円

〔既刊〕『アインシュタインと相対性理論』『ニュートンと重力』『ダーウィンと進化』

## 中央大学出版部

田村秀夫著『ユートピアの展開—歴史的風土—定価二四七二円  
「ベルリンの壁」崩壊が象徴するように、世界史はいま大きく転換し、古い枠組みが音をたてて崩れ落ちた。そして、煮えたぎる現実が激しく動いて行く方向を透視し、新しい秩序の形成を志向するとき、生き生きとしたユートピアが求められるで

大学出版部ニュース

## 東京大学出版会

柴谷篤弘・長野敬・養老孟司編『講座 進化』(全七巻、各二四七二円)が好評である。

地球の原始状態から、生命の発生を経て、現在のわれわれまで続く四五億年——その時間は生命の存在と意義をどう変えたのか、「進化」の問題を、現代という時代を背景にし、理科系と文科系の思想のからみあいを代

あらう。それは荘嚴な計画を構想しようという衝迫の所産であり、本来のユートピアの復権である。『ユートピア』から『一九八四年』まで写真が誘うユートピア復権の旅への招待。

加納晃著『フランス近代ソネット考—変則の美学—』定価三〇九〇円

近代詩・現代詩のソネットの変則形式に見られる、新しい美的感覚、いわば変則の美学について検証。

表する一つの総合科学としてとらえる野心的な試みである。

既刊は、ダーウィン以前から現代までの進化論を紹介した①『進化論とは』、進化思想が人間観・社会観に与えた影響を考える②『進化思想と社会』、化石が語るいきいきとした過去の世界の③『古生物学からみた進化』で、以下、④『形態学からみた進化』、⑤『生命の誕生』、⑥『分子からみた進化』、⑦『生態学からみた進化』と続刊。

## 東海大学出版会

小会では、日本生命財団の刊行助成をうけた『日本の地盤液状化履歴図』を編集。著者は永年の研究成果を十分に納得いくようにまとめる為に、データを一念にチェックし、洩らすことなく執筆している。著者と編集者と製作担当者の思いが強まる程、刊行までの時間が足りなくなっていく。

## 東京電機大学出版局

「電子出版」という言葉は、マスコミに登場して数年しかたっていないにもかかわらず、すでに市民権を得たようである。過去の出版とはおよそ無縁の電子技術に立脚したジャンルであり、少なくともハードウェアだけは電機メーカーの手により進歩した。大きく遅れをとったソフトであるが、最近、ようやく

宣伝の私は、紀伊國屋書店で5万分の1地形図をメモを片手につま先立ちで何枚も買い求めている。東北中部の地形図の収まっている棚が私の背では少し足りない。これらの地形図が本文中に2色刷りで284葉収録された。別売で刊行の『日本の地盤液状化地点分布図』で使う縮尺20万分の1地勢図も買い求めた。新刊レリーフもようやく下版。人と時間とお金を費して本書は12月20日に同時発売。(江)

日の目を見つつある。小局の音声付き英語辞書「サウンディクショナリー」も販売では戸惑いの一年が経過したが、ここにきて取扱いい代理店が広がりつつあり、英語のELI学会をはじめ反応がでている。ただ、ユーザーは小局の想いとは別に、これを教育教材システムとして捉えており、電子出版物とは見てくれない。読者にとって、「電子出版」は、いまだスタートラインの感がある。

## 東京農業大学出版会

東京農業大学では創立百周年を記念して各種行事を実施。

その中心となる記念式典は、

去る五月十八日、天皇・皇后両陛下、並びに東京農業大学の客員教授を務めるタイ国のチュラポーン第三王女、井上文相、近藤農相ら関係者多数参列の下、内田理事長、松田学長らの挨拶に続き、天皇陛下より「この大

学出版部ニュース

## 法政大学出版局

◆高齢化社会を目前にして、老人問題が新聞・雑誌をにぎわせています。小局でも、それぞれ独自の視点から老人問題を扱った新刊二点をあいついで刊行しました（いずれも書き下ろし）。

◆新村拓著／税込二四七二円

『老いと看取りの社会史』

日本人は古来「老い」をどう受

学から、国内はもとより、広く世界の環境および食糧にかかわる各分野に貢献する人々が数多く輩出されることを願っており「ます」とのお言葉があり、敢粛に挙行された。

明治二十四年、榎本武揚によって創設された東京農大百年の歩みを知る上で、写真で綴られた「目でみる東京農大百年」が参考になる。御希望の方は五千円同封の上、百周年事務局に申込むと入手出来ます。

けとめ、どう生きてきたか。その生活と意識、病などの時代相を追いながら、老人の扶養・介護の精神とありようを考える。

◆坂井洲二著／税込二二六六円  
『ドイツ人の老後』

老人問題はなによりもまず経済の問題である——この独自の視点から、契約の世界・ドイツの習慣と制度、老人ホームの歴史とその経営のシステムを探る。「日本人の老後」への緊急提言。

## 東京理科大学出版会

月刊誌「SUT」は東京理科

大学の英文名の頭文字で、学内教職員の熱心な編集にかかり卒業生の業績の紹介、学生の進路

ニュース及び科学トピックスの紹介等に意を用いている。最近の特集記事は次の通りです。

- これからのコンピュータ教育
- 企業内教育について
- 理工系大学における英語教育

## 放送大学教育振興会

◆九、十、十一月は、明春の三月いっせいで刊行となる新刊64点の原稿集めの最盛期。日ごろ超多忙な、なかなか原稿のとれない先生方が多いのが泣きどころだけに、「原稿できたよ」という声を聞いたときのうれしさはまた格別。この後いっせいに最繁忙期に突入する◆学際的でユニークな力作が目につく中から、前

○大気エアゾール

○女性先輩大いに語る

○東京物理学校創立百周年

○博士になるまで

○測定値は語る

○血液検査の正常と異常について

○地球環境問題へのアプローチ

○歩んで来た磁気記録の道

○メーカー離れと職離れ

定価四五〇円・送料五六円

年間購読十二冊五一五〇円

号につづいていくつかをご紹介します。『高齢化社会の生活と福祉』(鬼頭昭三・本間博文)、『近代性の社会学』(厚東洋輔・今田高俊)、『科学哲学』(伊藤公一)、『行政の活動』(西尾勝)、『マスメディアと現代』(藤竹暁)、『カオスとフラクタル入門』(山口昌哉)、『経営と創造性』(植山貞登)……◆大分で開催の「生涯学習フェスティバル」に放送大学の放送講義や特別講義のビデオ教材を中心に参加、出品。

## 明星大学出版部

菅泰男・山田昭廣

『シェイクスピアの劇と刊本』定価二九〇〇円

本書は、一九九〇年九月一日から一日まで、英国祭「UK '90」の参加行事として銀座ミキモトホールで開催された「シェイクスピアの悲劇・喜劇展」の中で、菅泰男教授「シェイクスピアの世界演劇」、山田昭廣教

授「シェイクスピアとその版本」と題して講演されたものをもとに、菅教授の『シェイクスピアの「重層性」について』『シェイクスピアにおける時の複合について』『すべてこの世は一つの舞台』の三点と、付録として展示会場を再現するための「展示目録」を加えた。

劇と版本の両面に分け入ることによって、おのずから立体的にシェイクスピアを見渡せる構成になっている。

## 早稲田大学出版部

▼『早稲田文学（第二次）復刻版』

（全13巻、全巻揃定価六五万円）の刊行を開始した。同誌創刊百周年を記念する三〇〇部限定出版。島村抱月時代の「早稲田文

学（第二次）明治39年〜大正7年）全一五七冊の本文・口絵・広告等すべてを復刻。一年分を一巻とし、10月より毎月20日に巻数順に配本。全巻完結に際し、「総目次・解説」他を進呈。菊判並製、各巻布貼特製入り。分売はいたしません。呈内容案内

▼『早稲田大学蔵 資料影印叢書 国書篇』（全32巻、定価各一二三六〇〜一五四五〇円）が12月の配本をもって完結。明年3月より第三期の刊行を開始します。

## 大学出版部 ニュース

### 名古屋大学出版会

▼下野恵子著『資産格差の経済分析—ライフ・サイクル貯蓄と遺産・贈与』（定価三六〇五円）現代日本が直面する個人資産分布の不平等増大という切実なテーマに、資産分布を決定する二つの要因—ライフ・サイクル貯蓄と遺産・贈与—を導入して理論的・実証的に分析し、平等化のための政策を具体的に提言。

▼H・プレスナー著／土屋洋二訳『遅れてきた国民—ドイツ・ナチズムの精神史』（定価二八八四円）遅れて近代に出会ったドイツ精神のジレンマとナチズムへの頹落を思想史の深みから考察する予言と内省の書。

▼R・ドール&R・ピート著／青木国雄・大野良之訳『ガンはどれだけ避けられるか—今日のアメリカの研究成果から』（定価四五〇〇円）人間のみのデータに基づき疫学的に調査研究。

### 京都大学術出版会

▼片野修著『個性の生態学—動物の個性から群集へ』（定価二八〇〇円）これまでの生態学では無視されてきた個性の問題を中心に捉え、個性・個体差から生態学の未来を展望する。生物の個性は社会や群集によって一方的に規制されるのではなく、個々の個別的行動を通して社会や群集の諸関係が形成されてい

るとする。これまでの「すみわけ論」や「セントラルドグマ説」を超えるものとして、個性から出発した一般「個別×単独の階層的関係を明らかにする「個体モザイク論」を提唱する。現実の生物世界での個体群のダイナミックな変動過程や生物間の複雑な関係様式をとりいれ、これまでの「一般法則」を再検討する新しい試み。▼生態学の新しい方向を示唆する「生態学ライブラリ」シリーズ創刊。

## 大阪経済法科大学出版部

『大阪経済法科大学アジアフォーラム(4号)』七〇〇円。  
「北東アジア三考」のテーマで「韓国の農地改革に対する評価」他二編の論文を収録。『東アジアの経済と社会』二五〇円。'89年11月本学主催、国際シンポジウムの論文収録。特に東アジア諸国の現状と将来を広い視点から考える。『河内地域史

〈総論編〉二八八四円。古代河内王朝発祥の舞台となった古代河内を歴史的・地理学的視点から考察した学術書。『戦争と平和の黙示録』二〇〇〇円。戦争の悲惨さと平和の尊さを戦争を知らない若い世代へ平易な文章で訴えた力作。戦争の最中、国民は何を考え、どのような状態に置かれたか戦況・戦時の研究を通して戦争に対する科学的な正しい考え方を教える。

## 関西大学出版部

▼小川悟訳『カフェハウスの文化史』(定価四七〇〇円) 迫書に満ちた歴史を持つコーヒー。また、特定階級のものであったサロン文化に代わって新たに庶民のサロンとなり、多様な文化を生み出す基盤となったカフェハウス。本書では、従来ほとんど知られていなかったコーヒーとカフェハウスの歴史が如実に

物語られている。日本図書館協会選定図書。▼大庭脩編著『安永九年安房千倉漂着南京船元順號資料』(定価五〇〇〇円) 安永九年、安房の千倉に漂着した中国貿易船の処理をめぐる、岩槻藩奉行の残した記録を初め、船に乗っていた副船頭の画家の作品などを集め、江戸時代の日中関係の断面を明らかにした資料集。一つの事件から糸を手繰り、自ずから展開する文化史のおもしろさがわかる。

## 大学出版部 ニュース

### 九州大学出版会

▼H・L・A・ハート&トニー・オノレ著／井上・真鍋・植田訳『法における因果性』へ法と国家翻訳叢書』A5・九八六頁・一五四五〇円。民事・刑事にわたる一千件以上の判例について、分析哲学的手法をもって、不法行為や犯罪など、法的答責性制度の客観的側面である因果性の分析を行った大著。(法と国家

翻訳叢書)(既刊) R・ドラテ『ルソーとその時代の政治学』(七〇〇四円)、D・ワルドー『行政国家』(五九七四円)、(続刊)カウフマン『責任原理』、スメント『憲法論文集』▼馬場金太郎・平嶋義宏編『昆虫採集学』A5・六八八頁・六六九五円。大家から新進気鋭の学徒まで二十六名の昆虫学者が、あらゆる角度から「採って生かす」昆虫採集学の真髄を説き、学問として体系づけた世界最初の本。

### 自著を語る

「書籍出版のマーケティング」  
——いかに本を売るか——  
出版マーケティング研究会編  
B5判285頁、3000円  
出版ニュース社

本書は、「多種少量生産の出版戦略とは、……その理論と実際を解く格好の手引書」

が謳い文句。この研究会への参加は編集から販売に移った時で、ベイリーの方法や原価計算・販売予測に数式を提出し、冷かされました。元々広告マンの勉強会、事例研究では伝統ある出版社ほどラフなマニュアルが多いのに驚きました。当協会の部会で勉強会が開かれる事を希望します。(中陣隆夫、東海大学出版会)



# 新刊案内 '91・8〜11

(表示価格は税込みです)

## ■北海道大学図書刊行会

農業機械化の基礎 岡村 俊民 六五四二円

北海道の自然史——氷期の森林を旅する 小野 有五・五十嵐八枝子 二四七二円

金融の原理 浜田 康行 三〇九〇円

スキー技術の歴史と伝統——ターンへの挑戦 中浦 皓至 二八八四円

大いなる島——北海道の自然史 北海道大学放送教育委員会編 一八五四円

身近な政治 北海道大学放送教育委員会編 二〇六〇円

新版 北海道の島 竹田津 実・小川 巖 一八五四円

## ■慶應通信

明治民法史の研究(下)〈手塚豊著作集第八巻〉 手塚 豊編著 六一八〇円

改訂 法と家族 櫻井みや子 二五七五円

協同組合論集 白井 厚 三三九九円

経営分析入門 藤森三男 一五四五円

教育の機会均等から生涯学習へ——大学通信教育の軌跡と模索—— 奥井 晶 二二六六円

オーストラリアの企業環境と経営 藤森三男編著 三三〇二円

イギリス道徳哲学の諸問題と展開へ日本倫理学会論集26) 日本倫理学会編 三六〇五円

民事訴訟の理論と実践 伊東乾教授古稀記念論文集刊行委員会編

現代アジアと国際関係 三田ASEAN研究会編 四一二〇円

産能大学出版部

経営の急所をつかむコツ 「ふるさと」経営への挑戦 竹内 芳夫 一八〇〇円

イスラムの謎と矛盾 小林 克己 一五〇〇円

社長の販売学 一倉 定 三〇〇〇円

マーケティング企画のつくり方 丸山 登 一八〇〇円

MESAマーケティング研究所/紺野 和多田 作一郎 二〇〇〇円

高収益物流システムの設計 田中 真澄 一三八〇円

生き方革命への対応 宮本 倫好 一六〇〇円

日本はなぜ孤立するか 波形 克彦 一八〇〇円

流通新時代「卸売業」成長戦略 鶴田 章 一五〇〇円

未来歴史年表 牟田 学 三〇〇〇円

社長業のすすめ方 越智 宏倫 一三八〇円

治る、治る、あなたもきつと治る 国司 義彦 一五〇〇円

「生き方を変える」17の視点 二味 巖 一八〇〇円

企業危機管理の時代

## ■玉川大学出版部

米国教育使節団の研究 土持ゲリー法一 九七八五円

日本人の死生観 唐澤富太郎 一八五四円

柳宗悦と初期民藝運動 岡村吉右衛門 三九一四円

アインシュタインと相対性理論〈原図で見る科学の天才〉

D・J・レイン／岡部哲治訳 一五四五円  
ニュートンと重力〈原図で見る科学の天才〉

P・M・ラッタナンシ／吉仲正和訳 一五四五円  
アメリカのリベラルアーツ・カレッジ

―伝統の小規模教養大学事情 宮田 敏近 二八八四円  
ダーウィンと進化〈原図でみる科学の天才〉

B・ストーンハウス／松香光夫訳 一五四五円

■中央大学出版部

ユートピアの展開―歴史的風土 田村 秀夫 二四七二円

■東海大学出版会

源氏物語(宿木巻)・源氏物語系図〈桃園文庫影印叢書〉

石田穰二解題 二〇六〇〇円  
齋藤 博 三〇九〇円  
現代英文法ノート 三上 敏夫 二〇六〇円

経済システムの国際比較へヒューマン・ウェルフェア・エコノミックス・シリーズ 阿部 望 二二六六円

企業と文化の対話―メセナとは何か 佐々木晃彦編 二〇六〇円  
技術大國日本の針路〈東海大学工学部公開講座シリーズ①〉

唐津一・菊池誠 一〇三〇円  
情報処理概論 唐津一監修／有賀正浩・加藤修一 三一九三円  
半導体の基礎〈ストリートマン半導体電子デバイス①〉

菊池誠監訳／大越正敏・貝田翔二・中下俊夫訳 二九八七円  
接合型半導体〈ストリートマン半導体電子デバイス②〉

菊池誠監訳／大串秀世・黒須植生・松本和彦訳 三九一四円  
半導体応用デバイス〈ストリートマン半導体電子デバイス③〉

菊池誠監訳／飯田昌盛・御子柴宣夫訳 二八八四円

固体物理学各論〈バーンズ固体物理学⑤〉

中村輝太郎・近桂一郎・村田好正・寺内暉訳 五〇四七円  
ジーマンズと明治日本 竹中 亨 一七五〇円

私の歩んだ道―湯川中間子とともに― 中村誠太郎 一七五一円  
玄武岩時代 星野 通平 八二四〇円

ライフロンジ・ソシオロジー 山本慶裕・元田州彦編 二六七八円  
臨床の肺生理学 L・マーチン著／古賀俊彦監訳 七七二五円  
胸腺腫の治療 有森 茂編 二八〇〇円

■東京大学出版会

歴史と人間について〈UP選書265〉 小谷 汪之 一六四八円  
ASEAN―シンボルからシステムへ 山影 進 四九四四円

公務員制の研究 辻 清明 五三五六円  
海と地球環境 日本海洋学会編 四四三二円

岩石力学入門〔第3版〕 西松祐一・山口梅太郎 四九四四円  
がんの新しい診断と治療へがんのバイオサイエンス4 井村裕夫編 二四七二円

帝国議会貴族院委員会速記録・昭和篇17 国立国会図書館所蔵 一三三六〇円  
帝国議会衆議院委員会速記録・昭和篇17 国立国会図書館所蔵 一六四八〇円

大日本史料 第四編之十五 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円  
大日本史料 第四編之十六 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円

日本近代都市論―東京―一八六八―一九二三 石塚 裕道 四六三五円

ソヴェト社会政策史研究 塩川 伸明 一三三六〇円  
子ども・学校・社会へUP選書266 藤田 英典 一六四八円

現代日本社会4 歴史的前提 東京大学社会科学研究所編 四三二六円

項目反心理論  
芝 祐順編 四三二六円  
古生物学からみた進化〈講座進化3〉  
柴谷篤弘・長野敬・養老孟司編 二四七二円

進化論とは〈講座進化1〉  
柴谷篤弘・長野敬・養老孟司編 二四七二円  
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編19  
国立国会図書館所蔵 一二三六〇円

進化思想と社会〈講座進化2〉  
柴谷篤弘・長野敬・養老孟司編 二四七二円  
帝国議会衆議院委員会速記録・昭和編18  
国立国会図書館所蔵 一二三六〇円

Full BASIC による算法通論  
森口繁一・伊理正夫・武市正人編 二二六六円  
太平洋戦争の起源  
入江 昭 二二六六円

がんと免疫へがんのバイオサイエンス5 橋本嘉幸編 二四七二円  
概説 現代政治の理論  
阿部 斉 二二六六円

帝国議会衆議院委員会速記録・昭和編18  
国立国会図書館所蔵 一二三六〇円  
現代日本社会5 構造  
東京大学社会科学研究所編 四三二六円

大日本史料 第四編補遺(別冊一)  
国立国会図書館所蔵 一六四八〇円  
初期中世社会史の研究  
宮島洋・金本良嗣編 三九一四円

大日本史料 第九編之十九  
東京大学史料編纂所編 一三三九〇円  
近世巨大都市の社会構造  
吉田 伸之 六一八〇円

大日本史料 第十編之二十  
東京大学史料編纂所編 九四七六円  
日本の労働者自主管理  
井上 雅雄 七四一六円

大日本史料 第十二編之五十二  
東京大学史料編纂所編 六三八六円  
形態学からみた進化〈講座進化4〉  
柴谷篤弘・長野敬・養老孟司編 二四七二円

大日本古文書 東寺文書九  
東京大学史料編纂所編 六三八六円  
Cによる算法通論 森口繁一・伊理正夫・武市正人編 二二六六円

大日本古文書 幕末外国関係文書四十三  
東京大学史料編纂所編 六三八六円  
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編20  
国立国会図書館所蔵 一六四八〇円

大日本維新史料 井伊家史料十七  
東京大学史料編纂所編 八四四六円  
Theoretical and Applied Mechanics, Vol. 40  
橋本英典編集代表 二〇六〇〇円

日本関係海外史料 オランダ商館長日記訳文編之七  
東京大学史料編纂所編 七〇〇四円  
東京電機大学出版局  
第二種情報処理試験全問題解答集〔91秋季版〕 二五七五円

徂徠学の世界  
田原 嗣郎 四六三五円  
マルチスプライン〈情報科学セミナー〉  
チャールズ・K・チュウイ/桜井・新井共訳 三二九六円

日本近世商業史の研究  
山口 徹 五一五〇円  
無線工学の基礎Ⅱへ2陸技1・2総通受験教室②

日本陸海軍総合事典  
秦 郁彦編 三二九六〇円  
本間 長世 三九一四円

ユーザーズ デジタル信号処理 大熊 利夫 二四〇〇円  
 ハイテク選書ワイド 夢ふくらむ海洋牧場 江原 義郎 二五七五円  
 第一種情報処理試験全問題解答集〔92年版〕 市村武美 一六四八円  
 二二六六円

東京農業大学出版会  
 東京農業大学畜産学実験実習書  
 東京農業大学畜産学実験実習書編集委員会 六〇〇〇円

東京理科大学出版会

法政大学出版局

日本古代政治の展開〈叢書・歴史学研究〉前川 明久 四九四四円  
 自伝のかたち——文学ジャンル史における出来事—— 三七〇八円

W・スペンジマン／船倉正憲訳  
 R・アイズラー／野島秀勝訳 三六〇五円

貨幣の暴力——金融危機のレギュレーション・アプローチ——  
 M・アグリエッタ&A・オルレアン／井上・斉藤訳 四四二九円

象徴としての円——人類の思想・宗教・芸術における表現——  
 M・ルルカー／竹内 章訳 二〇六〇円

ベルリンからエルサレムへ——青春の思い出——  
 G・ジョーレム／岡部 仁訳 二三六九円

ソシユール講義録注解  
 F・de・ソシユール／前田英樹 訳・注 二二六六円  
 P・ショールニエ／大谷尚文訳 四九四四円

歴史とデカダンス  
 橋へものゝ人間の文化史66 小山田了三 二八八四円  
 新村 拓 二四七二円

老いと看取りの社会史  
 アメリカ演劇 5——ユージン・オニール特集——

ドイツ人の老後 全国アメリカ演劇研究者会議発行 一〇三〇円  
 スピノザと表現の問題 坂井 洲二 二二六六円  
 G・ドゥルーズ／工藤・小柴・小谷訳 四四二九円  
 批評の批評——研鑽のロマン——

T・トドロフ／及川馥・小林文生訳 二八八四円  
 方法2 生命の生命 E・モラン／大津真作訳 七九三一元  
 箱へものゝ人間の文化史67 宮内 恕 二九八七円  
 ヴォルテール

A・J・エイヤー／中川信・吉岡真弓訳 二八八四円

戦後社会運動資料・第二回配本『社会思潮』全八巻  
 法政大学大原社会問題研究所編／全八巻セット 一五四五〇〇円

人間学批判 W・レペニース&H・ノルテ／小竹澄栄訳 二二六六円  
 神の思想と人間の自由

W・パネンベルク／座小田豊・諸岡道比古訳 二〇六〇円  
 夫婦関係の治療 J・ヴィリイ／奥村満佐子訳 四一二〇円

倫理・政治的ディスクール O・ヘッフェ／青木隆嘉訳 二九八七円

放送大学教育振興会

明星大学出版部  
 シュイクスピアの劇と刊本 菅泰男・山田昭廣 二九〇〇円

早稲田大学出版部  
 ロシヤ史研究五十年 増田 富壽 九七八五円  
 自由民権運動と立憲改進黨 大日方純夫 八二四〇円

政治思想史講義 藤原保信・白石正樹・渋谷浩編 三八〇〇円

国際企業と情報戦略——情報ネットワークの展開——

浦山 重郎 一三〇〇円  
信認義務の理論的基礎—アメリカ法を中心にして—  
王 君 六八〇〇円

科学哲学24 特集・異文化理解の基礎

日本科学哲学会編 一八五四円

平和研究第16号 特集・グローバルデモクラシー

日本平和学会編 二八〇〇円

早稲田大学蔵資料影印叢書 国書篇全32巻

第31巻 馬琴評答集(5)

早稲田文学(第二次)復刻版 全13巻

第1巻(明治39年1月号〜12月号)

第2巻(明治40年1月号〜12月号)

柴田光彦編 一五四五〇円

全巻揃六五〇〇〇円

分売不可

分売不可

■名古屋大学出版会

資産格差の経済分析—ライフ・サイクル貯蓄と遺産・贈与—

下野 恵子 三六〇五円

現代企業と法—企業組織・取引・有価証券—

青竹正一・浜田道代・山本忠弘・黒沼悦郎編 八二四〇円

遅れてきた国民—ドイツ・ナショナリズムの精神史—

H・プレスナー／土屋洋二訳 二八八四円

二〇世紀ヨーロッパ社会経済史

アムプロジウス&ハバード／肥前栄一他訳 三六〇五円

グリルパルツァ自伝

佐藤自郎訳 二八八四円

ガンはどれだけ避けられるか—今日のアメリカの研究成果から—

R・ドール&R・ビート／青木国雄・大野良之訳 四五〇〇円

■京都大学学術出版会

個性の生態学—動物の個性から群集へ—

シリーズ 〈生態学ライブラリー〉 片山 修 二八〇〇円

■大阪経済法科大学出版部

上林貞治郎 二〇〇〇円

戦争と平和の黙示録

■関西大学出版部

雲山抄

安永九年安房千倉漂着南京船元順號資料

近世対馬陶窯史の研究

パリを歩きま専科

G M—輸出会社と経営戦略—

サマセット・モームの短篇小説

堀 正人 三〇〇〇円

大庭 脩編 五〇〇〇円

泉 澄一 九〇〇〇円

乾 昌明 二〇〇〇円

井上 昭一 六〇〇〇円

越川 正三 六五〇〇円

■九州大学出版会

法における因果性〈法と国家翻訳叢書〉H・L・A・ハート&

トニー・オノレ／井上祐司・真鍋毅・植田博訳 一五四五〇円

不確実性と情報の経済分析〔第2版〕〈経済工学シリーズ〉

細江 守紀 三〇九〇円

昆虫採集学

馬場金太郎・平嶋義宏編 六六九五円

成人初級日本語副教材集

きょうから日本語 因 京子・栗山昌子・古賀知子 二九八七円

成人初級日本語副教材集

きょうから日本語(カセットテープ) 因 京子・栗山昌子・古賀知子 三九一四円

Proceedings of the 1991 International Symposium on

Supercomputing 因 島崎眞昭編 五一五〇円

環黄海経済圏—東アジアの未来を探る—

西村 明・渡辺利夫編 三九一四円

福岡から地球社会を見る〈九州産業大学公開講座1〉

九州産業大学公開講座委員会編 二〇〇〇円

フロッピー全盛である。著訳者から原稿を受領するとき、「フロッピーだけお渡しすればいいのですね」といわれることも多くなった。もちろん、電子編集機など持たない零細の大学出版部にとってこれは困る。当然プリントアウトしたのももつけていただくことになるが、いずれにせよ、このフロッピーの役割をどう評価するかについて、著訳者と出版部・印刷所それぞれに思惑の違いがあるようだ。

●著訳者の思惑　ごく一般的な著訳者にとって、組版とは手書き文字を活字に変えることだという認識しかない。フロッピーで渡すということは、その作業を全て自分でやってしまったことになる。極端にいえば、組版代はタダになると考えても無理はない。しかも、小部数の学術出版は組版代がネックになると聞かされているから、フロッピー渡しなら印税の1%や2%、上げてもらっても罪にはなるまいと、口には出さないまでも考える。これも無理はない。ところが、現実はそのほならない。

●印刷所の本音　組版代＝文字入力代と考えるとところに無理がある。本来、物を作り出すわけではない営業マンや管理者の人員費も組版代の中には含まれているのだ。しかも、人間の手で入力しないとはいっても、出力するためには高価な機械を動かさなくてはならない。技術革新の時代にあつて、機械の減価償却を急がなければ、たちまち経

## ●製作の現場から フロッピーをめぐる思惑

営が成り立たなくなるだろう。さらに、組版代には改稿費が含まれている。常識的な訂正であれば、三校までは組直し料など請求されることはまずないが、この作業まで著訳者がやってくれるわけではない。

そしてさらに、コーディングと組処理の問題がある。見出しの大きさ・位置・書体・括弧内の文字の大きさ・書体・字下げ、

ルビ、注番号、添字、傍点・傍線など、これらはすべて、文字と文字の間に隠されたファンクションによって指定される。どんなに高級なワープロを使って仕上がりに近い形に打ち上げたとしても、この作業を省略するわけにはいかない。むしろ、あまりにも凝った打ち方をされると、変換されない部分が多くなることにもなる。「—太郎なら変換できません、文豪や書院なら問題ないですよ」というのは、あくまでもJISコードがつけられた全角・半角・倍角のキータタについてのことなのだ。

●出版部の正論　組版代に占める文字入力代の比率が低いことは理解できる。しかし、世間相場からして、単純文字入力代が約50銭、専用機による入力ではないこと、プロの入力ではないことを理由に10銭ずつ差し引いても30銭。組版代を二円とすれば15%に相当する。これは堂々と値引きを要求できる数字だと思ふのだが……？

(法政大学出版局・秋田)

## ●協会関連書のご案内

大学出版部協会顧問・箕輪成男氏の翻訳により、J・フェザー『イギリス出版史』が玉川大学出版部より刊行されました。世界にさがけて大学出版部を生み出したイギリスの出版の歴史は、関心の高いテーマであろうかと思ひます。ご購入をおすすめします。

### 〔主要目次〕

- I 序章 印刷以前の書籍業界  
——カクストンから一七世紀まで——鎖につながれた印刷機の時代
- II 一八世紀のイギリス出版  
——検閲からの解放
- III 一九世紀のイギリス出版  
——最初のマス・メディア
- IV 二〇世紀の出版業界  
(三九二頁・税込三九一四円)





# 大学出版部協会の歩み

昭和38年(一九六三)6月11日 大学出版部協会設立

総会、東京大学出版部にて。玉川大学出版部、中央大学出版部、東海大学出版部、東京大学出版部、東京電機大学出版部、東京農業大学出版部、法政大学出版局、日本学術振興会、日本図書文化協会(東京教育大学)、早稲田大学出版部、以上十校代表者により大学出版部協会設立総会を行なう。大学出版部協会初代幹事長 箕輪成男。

昭和46年(一九七二)11月 関西大学出版部、協会加入。

昭和47年(一九七二)9月 北海道大学図書刊行会、協会加入。

同年11月 アジア太平洋地域大学出版部会議《国際図書年》を記念して(第一回)東京開催。主催大学出版部協会。

昭和51年(一九七六)5月 国際出版連合(IPA)京都大会、および国際学術出版連合第二回総会を国立京都国際会議場にて開催。

同年9月 新幹事長に中平千三郎(東京大学出版部)選出。九州大学出版部、協会加入。

同年11月 玉川大学出版部・東海大学出版部、国際学術出版連合に加入。

昭和52年(一九七七)12月 東京電機大学出版部、協会再加入。

昭和53年(一九七八)2月 協会、初めて「大学出版部協会総合図書目録」一九七八年度版(合本)を刊行し、共同発送。以後年一回定期。

同年5月 東京大学出版部にて、「協会創立二五周年・回顧と展望」座談会を行なう。

同年10月 大学出版部協会創立一五周年記念「大学図書出版展示即売会」を紀伊國屋書店PRルームにて開催。

同年12月 明星大学出版部、協会加入。  
昭和54年(一九七九)8月 産能大学出版部、協会加入。

昭和55年(一九八〇)7月 日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会(大阪・日本生命ビル)。  
同年12月 慶應通信、協会加入。

昭和56年(一九八一)8月 韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプション(日本出版クラブ)。  
同年9月 中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総会社の主催、大学出版部協会の協賛により開催。

昭和57年(一九八二)9月 「日米大学出版局刊行物展」が丸善主催、日米両国の大学出版部協会の協賛により丸善本店で開催。名古屋大学出版部、協会加入。

昭和58年(一九八三)5月 大学出版部協会創立二〇

周年記念講演会を紀伊國屋ホールにて開催。  
昭和60年(一九八五)4月 新幹事長に石井和夫(東京大学出版部)選出。東京理科大学出版部、協会加入。東京農業大学出版部、協会再加入。

同年8月 中国大学出版社代表団、来日。  
昭和61年(一九八六)5月 『大学出版』創刊。

同年9月 北京国際図書展へ大学出版部協会訪中代表団、参加。

昭和62年(一九八七)9月 北京・国際外国語教育図書展示会へ大学出版部協会訪中代表団、参加。

昭和63年(一九八八)6月 大学出版部協会創立二五周年記念と感謝の会をアルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催。『25年の歩み』刊行。

同年7月 新幹事長に山田渉(東海大学出版部)選出。

平成元年(一九八九)4月 放送大学教育振興会、大阪経済法科大学出版部、協会加入。

同年11月 世界の大学図書展開催。中国・韓国両大学出版部協会代表団、来日。  
平成2年(一九九〇)4月 京都大学学術出版部、協会加入。

平成3年(一九九一)4月 新幹事長に斎藤至弘(東京大学出版部)選出。  
同年8月 第一〇回日韓大学出版部協会合同セミナーを開催。

# 大学出版部協会加盟出版部一覽

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北9条西8丁目 北大構内 TEL. 011-747-2308 FAX 011-736-8605
慶應通信	〒108 東京都港区三田2-19-30 TEL. 03-3451-3584 FAX 03-3451-3122
産能大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘2-16-5 自由が丘サンビル TEL. 03-3724-9101 FAX 03-3717-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL. 0427-28-3213 FAX 0427-28-3218
中央大学出版部	〒192-03 東京都八王子市市東中野742-1 TEL. 0426-74-2351 FAX 0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル TEL. 03-3356-1541 FAX 03-3341-1833
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内 TEL. 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL. 03-3294-1551 FAX 03-3294-2807
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL. 03-3420-2131 FAX 03-3706-8851(総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区若宮町19 TEL. 03-3235-5692 FAX 03-3235-9632
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見2-17-1 TEL. 03-3237-1731 FAX 03-3237-8899
放送大学教育振興会	〒105 東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政互助会琴平ビル4F TEL. 03-3502-2750 FAX 03-3592-2482
明星大学出版部	〒191 東京都日野市程久保2-1-1 TEL. 0425-91-5115 FAX 0425-93-0192
早稲田大学出版部	〒169 東京都新宿区戸塚町1-103 TEL. 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406
名古屋大学出版会	〒464-01 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内 TEL. 052-781-5027 FAX 052-781-0697
京都大学学術出版会	〒606-01 京都府京都市左京区吉田本町 京都大学構内 TEL. 075-761-6182 FAX 075-761-6182
大阪経済法科大学出版部	〒581 大阪府八尾市楽音寺6-10 TEL. 0729-41-8211 FAX 0729-41-9979
関西大学出版部	〒564 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL. 06-388-1121 FAX 06-389-5162
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内 TEL. 092-641-0515 FAX 092-641-0172